

# 令和 6 年度第 1 回 高槻市緑地環境保全等審議会 会議資料

---

- 1. 前回審議会の意見を踏まえた進捗管理方法の検討について
- 2. 重点施策の進捗状況について
- 3. 中間見直しについて

---



## 1. 前回審議会の意見を踏まえた進捗管理方法の検討について

### <意見>

#### 1. 指標の評価方法について

##### ■指標の数値だけでなく、その結果に至った要因や過程などの部分を考慮して評価する

###### <主な意見>

- ・指標の数値の増減要因については、年の積み重ねで変化する項目だけでなく、季節ごとに増減する項目もあり、指標ごとに増減の要因は異なる。そのため、指標の数字の増減だけを見るのではなく、その結果に至った要因や過程などの質的な部分も考慮して評価を行うべき。

#### 2. 評価指標の記載について

##### ■指標の課題や取組内容、今後の展開について記載

###### <主な意見>

- ・指標の数値だけを記載するのではなく、課題や取組内容、今後の展開についても記載するべき。



### <対応>

施策指標の実績数値に関する以下の内容を追加記載する。

- ・「主な指標の増減に関する要因や取組内容」
- ・「今後に向けた課題や方向性」

## 2. 重点施策の進捗状況について

### 重点施策 1 | 森林被災地復旧への取組の推進

#### ■ 内容

平成 30 (2018) 年の台風第 21 号により激甚災害指定を受けた森林被害について、国の「森林災害復旧事業」を活用し、被災森林の復旧に向け継続して取り組みます。また、残る被災森林において、関係団体と連携を図り、森林の再生に取り組みます。

#### 令和 5 年度実績

#### ■ 目標（前期）

##### 被災地のうち優先度の高い森林について復旧を図る

取組実績	担当課
<p>平成 30 年 9 月の台風第 21 号による風倒木被害を受けた森林の復旧及び二次災害防止のため、集落や道路・河川付近など、優先度の高い森林について、大阪府森林組合三島支店が実施する「森林環境保全直接支援事業」及び「特定森林再生事業」について支援した。</p> <p>●被災森林の復旧面積（市関連部分） 9.01ha</p> <p>※延べ復旧完了面積 132.01ha</p>	農林緑政課

## 施策指標

### ■今後の被災森林復旧面積

積み上げ実績

風倒木被害を受けた森林で、現在も復旧事業が実施されていない森林の復旧を進めます。

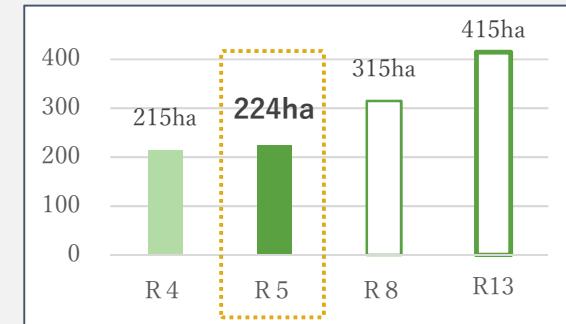
<令和5年度>  
224ha  
■市関連部分 | 132ha



<令和8年度>  
315ha



<令和13年度>  
415ha



### 主な指標の増減した要因や取組内容

- ・大阪府が行う造林補助事業との連携・調整の結果、市関連の令和5年度復旧面積については9.01haの整備に取り組んだ。
- ・大阪府、高槻市及び大阪府森林組合の三者で事業地の選定等の検討を行った。

### 取組に対する課題や今後の方向性

- ・大阪府において国費や府費を活用した風倒木等の復旧作業を進め、市においても被害森林の早期復旧を図るため、引き続き、大阪府森林組合を支援していく。

## 重点施策2 | 担い手の育成・確保、農地の集積・集約化の支援

### ■内容

担い手の育成・確保とともに、人・農地プラン（現：地域計画）や農空間づくりプランの策定を推進し、営農が継続されるまちづくりに取り組み、遊休農地化の抑制を図ります。

### 令和5年度実績

### ■目標（前期）

#### 農用地利用集積面積（利用権設定面積）を増やす

取組実績	担当課
新規就農希望者等に農地中間管理事業の活用を勧めるなど、農用地利用集積面積の増加に取り組んだ。 ●農用地利用集積面積 24.3ha	農林緑政課

## 施策指標

### ■農用地利用集積面積

単年実績

農地の集積・集約化を進めることで、農地の有効利用と農業の振興を図ります。

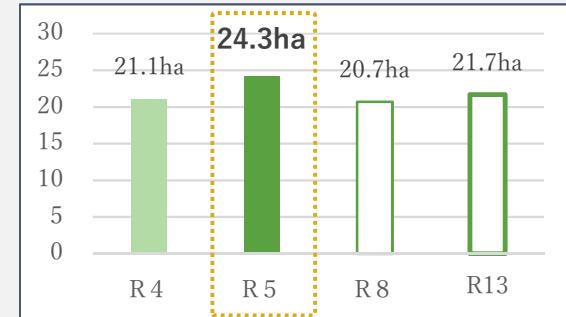
<令和5年度>  
24.3ha



<令和8年度>  
20.7ha



<令和13年度>  
21.7ha



#### 主な指標の増減した要因や取組内容

- ・新規農業参入に伴う農用地利用集積計画の策定について、令和4年度よりも件数が多かったことが増加要因の一つだと考える。
- ・新規農業参入希望者と農地貸付希望者のマッチング業務を関係機関と協力しながら実施した。

#### 取組に対する課題や今後の方針

- ・令和6年度末で法改正の移行期間が終了することに伴い、令和7年度から農地貸借におけるマッチング方法や貸借の方法などが変更になることへの対応が必要。（※農林業基本計画と連動）
- ・農業者の高齢化等の課題に対して、関係機関と協力しながら、新規農業参入希望者と農地貸付希望者のマッチングを推進し、遊休農地化を抑制していく。

## 重点施策3 | 芥川創生基本構想に基づく「ひとつ魚にやさしい川づくり」

### ■内容

芥川創生基本構想に基づき、市民協働による川づくりに取り組みます。

### 令和5年度実績

#### ■目標（前期）

##### 河川管理者(国、大阪府)と連携した市民協働の川づくりの継続

取組実績	担当課
<p>行政や市民団体で組織している芥川・ひとつ魚にやさしい川づくりネットワークによって、芥川における魚道の定期的なメンテナンスや特定外来生物ミズヒマワリのパトロールと駆除を実施。</p> <p>また、芥川での市民参加型のイベントとして、「淀川・芥川クリーンアップ大作戦」や「水辺の楽校」などを開催。</p> <p>● イベント参加人数 562 人</p>	下水河川企画課

### ■ イベント・活動の参加者数 単年実績

引き続き、芥川を守り育て、水や生き物とのふれあいを通じて、豊かな心を育む「ひとつ魚にやさしい川づくり」に河川管理者や市民とともに協働して取り組みます。

<令和5年度>  
562人



<令和8年度>  
1,000人



<令和13年度>  
1,000人



#### 主な指標の増減した要因や取組内容

- ・「淀川・芥川クリーンアップ大作戦」に今まで参加していた市民団体が不参加になったことや天候不良などでイベントそのものが中止になったことが主な要因。
- ・水辺の楽校については、参加の小学校によって生徒数に変動が生じる。

#### 取組に対する課題や今後の方向性

市民団体のメンバーの高齢化が進むなど、イベント運営の担い手が不足しているため、参加を通じて、イベント運営の担い手になってもらえるよう芥川の魅力について引き続き発信をしていく。

## 重点施策4 | ヨシ原の保全

### ■内容

河川管理者である国や地元団体などと連携し、多種多様な生き物が生息・生育する鵜殿のヨシ原の保全活動を支援します。

### 令和5年度実績

### ■目標（前期）

#### ヨシの生育状況の改善及び多種多様な生き物の生息状況の維持

取組実績	担当課
<p>関係機関や地元団体等と連携し、ヨシの生育に悪影響を及ぼすつる草の駆除活動の効果測定のためのヨシの生育状況の調査、地元団体によって行われるヨシ原焼きに対する支援など、ヨシ原の保全に向けた取り組みを行った。つる草の駆除やヨシ原焼きの実施により、ヨシの生育状況の改善がみられた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●生育状況調査 7回</li><li>●ヨシ原焼き 実施</li></ul>	農林緑政課

## 施策指標

### ■鵜殿のヨシ原におけるヨシ群落及びオギ・ヨシ群落の割合

単年実績

ヨシ原の保全を進めることで、ヨシの生育を阻害する要因となるカナムグラなどの植物の繁茂を抑制し、多種多様な生き物が生息できる環境を維持・保全します。

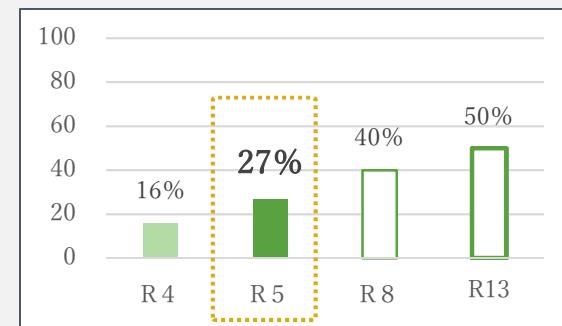
<令和5年度>  
27%



<令和8年度>  
40%



<令和13年度>  
50%



#### 主な指標の増減した要因や取組内容

- 增加要因として、導水路の通水期間が長くなったりことや、つる草の駆除活動によるヨシの生育状況の改善などが影響していると考えられる。
- 関係機関や地元団体等と連携し、ヨシの生育に悪影響を及ぼすつる草の駆除活動の効果測定のためのヨシの生育状況の調査、地元団体によって行われるヨシ原焼きに対する支援など、ヨシ原の保全に向けた取り組みを行った。

#### 取組に対する課題や今後の方向性

地元関係者の高齢化や年々高まる安全対策の要請への対応などから、ヨシ原焼きの継続自体が課題となっている。また、つる草抜きの実施範囲はヨシ原の一部であり、ヨシ原全体の保全をどのようにしていくのか、土地管理者である国土交通省淀川河川事務所をはじめとした関係機関・地元団体等と連携して検討する必要がある。

## 施策指標

### ■鵜殿のヨシ原焼きの実施

単年実績

ヨシ原の保全策として有効なヨシ原焼きを今後も継続していくことで、良質なヨシの生育環境の維持・保全を図ります。



#### 主な指標の増減した要因や取組内容

ヨシ原焼き実施にあたり、広報や苦情受付窓口の設置、見物人の整理・誘導、車両の交通整理、通行規制事前告知看板の設置・回収等を行い、地元主体によるヨシ原焼きの円滑な実施を支援した。

#### 取組に対する課題や今後の方針

地元関係者の高齢化や、年々高まる安全対策の要請への対応などから、ヨシ原焼きの継続自体が課題となっている。また、本市を含む周辺住民の入れ替わりが進む中、ヨシ原焼きの実施に対する理解の継続も課題である。実施主体である地元や土地管理者である国土交通省と連携し、引き続きヨシ原焼きの実施を支援していく。

## 重点施策5 | 摂津峡・三好山周辺の歴史・自然環境の保全・活用

### ■内容

市民に親しまれている摂津峡・三好山周辺の歴史・自然環境を保全・活用し、関係団体などと連携しながら、地域の活性化を推進します。

### 令和5年度実績

#### ■目標（前期）

- ・芥川山城跡の史跡指定
- ・摂津峡周辺地域の魅力を広く市内外へ発信することで、観光振興の側面から地域の活性化を推進
- ・摂津峡公園ハイキング道の安全確保及びルートの見直し検討

取組実績	担当課
<p>「摂津峡における自然環境の保全等に関する条例」に基づく環境保全区域でのB B Q 禁止について、警備員の配置や広報誌への掲載等により周知・啓発を実施したことで、条例制定前と比べ、大幅にバーベキュー等の禁止行為が抑制できている。</p> <p>●制止件数 34件 (H30年度の制止件数 460件)</p>	環境政策課
<p>災害等で崩れている路肩や倒木のある箇所について点検し、通行止め措置や看板等による注意喚起を行うとともに、安全に通行できるよう修繕を実施。これらの日常点検および緊急点検により、ハイキング道の安全性を確保した。</p>	公園課
<p>風致地区内における建築等の規制に関する条例に基づき、風致地区内における開発行為に建築物の高さや建ぺい率を制限することなどにより、低密度の土地利用や緑化・ゆとりの空間の確保を誘導し、風致の維持・保全につとめることで地区内の風致（自然の趣）の維持・保全に取り組むことができた。</p> <p>●許可件数 3件</p>	農林緑政課

取組実績	担当課
<p>摂津峡周辺地域の魅力を広く発信するため、体験交流型観光プログラム「オープン高槻」等において、摂津峡周辺での取組を実施するとともに、市公式インスタグラムにおいて、摂津峡の魅力に関する投稿を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プログラム数 27 件</li> <li>●投稿数 18 件</li> </ul>	観光シティセールス課
<p>史跡地の今後の保存と活用のため、公有化に向けた取組に着手した。また普及啓発のため、連続講座の開催や、アプリ「A R 芥川城」の配信、記念御城印・武将印のデザイン一新などにより魅力発信を進めるとともに、登城ルートの修繕を行うことで、市民の関心をさらに高め、貴重な城郭遺構の保存と活用の取組を進めた。</p>	文化財課

## ■この1年以内に摂津峡・三好山周辺を訪れたことのある市民の割合

<令和13年度>

令和8年度に目標値を設定します

※令和4年度 | 28.9%

### 主な指標の増減した要因や取組内容

- ・体験交流型観光プログラム「オープン高槻」等において、摂津峡周辺での取組を実施した。また、SNSを活用し、摂津峡の魅力に関する投稿を行い、摂津峡周辺地域の魅力を広く発信した。
- ・連続講座の開催や、アプリ「AR芥川城」の配信、記念御城印・武将印のデザイン一新などにより魅力発信を進めるとともに、登城ルートの修繕を行った。
- ・史跡地の今後の保存と活用のため、公有化に向けた取組に着手した。

### 取組に対する課題や今後の方向性

- ・摂津峡周辺地域での体験プログラムなどを引き続き積極的に実施するとともに、SNS等を活用して市内外への魅力発信に努める。
- ・今後は、史跡の保存活用を進めるため、保存活用計画の策定に着手するとともに、指定地の公有化に向けて測量を進める。

## 重点施策 6 | 高槻城公園の整備

### ■内容

市民の憩いの場や、誰もが自由に楽しめるにぎわい空間を形成し、「みどり」、「歴史」、「文化」をめぐる人々の交流と地域の活性化を促す新たな交流拠点として、高槻城公園の整備を進めます。

### 令和5年度実績

### ■目標（前期）

#### 高槻城公園中央エリアの開園

取組実績	担当課
高槻城公園中央エリアの開園に合わせて高槻城に関する企画展や特別展、講座などをしろあと歴史館にて開催し、高槻城とその歴史に関する情報を来館者へ提供した。	歴史にぎわい推進課 文化財課

## 施策指標

### ■整備工事の進捗率

積み上げ実績

高槻城公園の中央エリア、北エリアの整備を進めます。

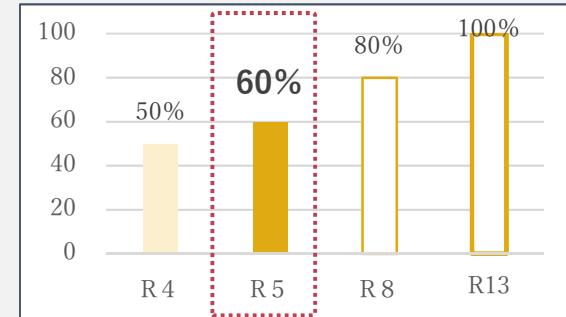
<令和5年度>  
60%



<令和8年度>  
80%



<令和13年度>  
100%



#### 主な指標の増減した要因や取組内容

- ・旧市民会館の解体工事着手及び高槻城公園北エリアの基本設計を完了した。

#### 取組に対する課題や今後の方針

- ・引き続き、高槻城公園北エリアの整備に取り組んでいく。

## 重点施策 7 | 芥川緑地の健康づくり広場等整備

### ■内容

地域住民のニーズを踏まえながら、子どもの遊び場や中高年層の健康づくりの場など、幅広い層のライフスタイルに応じて利用される公園の整備を進めます。

### 令和5年度実績

### ■目標（前期）

#### 子どもから高齢者まで“健康づくりを楽しむ公園”の整備

取組実績	担当課
健康づくり広場（アクトレ）が令和6年3月16日に開園し、芥川緑地への来園者数が増加した。	公園課
●整備工事の進捗率 100%	

## 施策指標

### ■整備工事の進捗率

積み上げ実績

芥川緑地の健康づくり広場等整備を計画的に進めます。

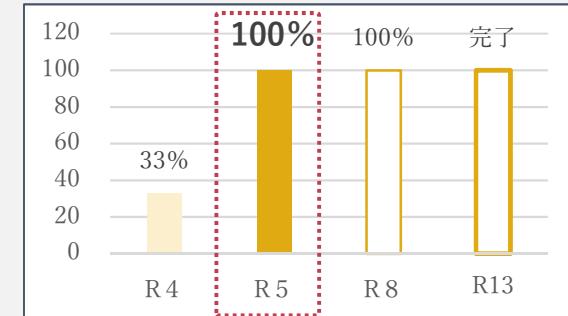
<令和5年度>  
100%



<令和8年度>  
100%



<令和13年度>  
完了



#### 主な指標の増減した要因や取組内容

令和6年3月16日に健康づくり広場（アクトレ）を開園することができた。

#### 取組に対する課題や今後の方針

高槻市立自然博物館（あくあぴあ）や府内関係部局と連携を図り、芥川緑地内の健康づくり広場（アクトレ）や自然博物館等が円滑に運営され、芥川緑地全体が活性化するよう管理運営を行う。

## 重点施策8 | 緑化重点地区におけるみどりの連続化

### ■内容

「緑化重点地区」では、高槻城公園を中心に周辺の既存公園、街路樹などによるみどりの連続化を図ります。

### 令和5年度実績

#### ■目標（前期）

##### 高槻城公園中央エリアの開園

取組実績	担当課
市民向けに花苗や緑化樹を配布し、地域の緑化活動の支援を行った。また、周辺地域の開発行為緑化協議を通じて緑化の推進に努めた。  ●高槻城公園周辺エリアの緑視率 19.9%（前年度比-0.1%）	農林緑政課
令和4年度に高槻城公園中央エリアを開園し、市民の憩いの場や、誰もが自由に楽しめるにぎわい空間を形成し、「みどり」、「歴史」、「文化」をめぐる人々の交流と地域の活性化を促す新たな交流拠点が誕生した。引き続き、高槻城公園北エリアの整備を実施。	歴史にぎわい推進課

## 施策指標

### ■緑化重点地区内の緑視率

単年実績

緑化重点地区で高槻城公園の整備や周辺エリアのみどりの連續化を図ることで、地区内の緑視率を向上させ、快適で良好なみどり空間の形成を図ります。

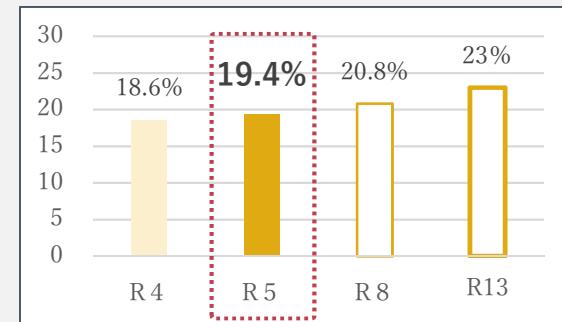
<令和5年度>  
19.4%



<令和8年度>  
20.8%



<令和13年度>  
23%



#### 主な指標の増減した要因や取組内容

- ・区域内の植栽帯における植物の生育状況の変化等により数値の増減が生じ、結果として増加したものと考えられる。
- ・市民向けに花苗や緑化樹を配布し、地域の緑化活動の支援を行った。また、周辺地域の開発行為緑化協議を通じて緑化の推進に努めた。

#### 取組に対する課題や今後の方針

区域内で良好な管理がなされていない植栽帯の利活用を促す必要があるため、施設管理者や地域と連携し、地域の緑化推進に努める。

## 重点施策9 | さまざまなみどりの活用による浸水被害の軽減

### ■内容

農地・森林・ため池などの保全や公共施設の活用により、雨水の保水・貯留・地下浸透を促進し、都市型集中豪雨などの浸水被害を軽減します。

### 令和5年度実績

### ■目標（前期）

#### 農地・森林・ため池の保全や公園などの公共施設を活用した雨水対策による浸水被害の軽減

取組実績	担当課
<p>市立小中学校のグラウンド改修に合わせて、2 施設の雨水流出抑制施設の整備を行った結果、過去最大規模の降雨量（110mm/時）が降った場合、施設周辺地域への雨水流出量を2施設あわせて約 350 立方メートル抑制が可能となった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●雨水流出抑制施設の整備数 2 施設（土室小学校、冠中学校）</li></ul>	下水河川企画課 公園課 学校安全課
<p>遊休農地の現地調査や話し合いを行い、遊休農地の抑制と解消に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●現地調査 10 地区</li><li>●地区協議会開催数 10 地区</li><li>●遊休農地面積 90,303 m<sup>2</sup></li></ul>	農林緑政課

## 施策指標

### ■雨水流出抑制施設の整備箇所数

単年実績

浸水が多発する重点区域において、雨水流出抑制施設を整備します。

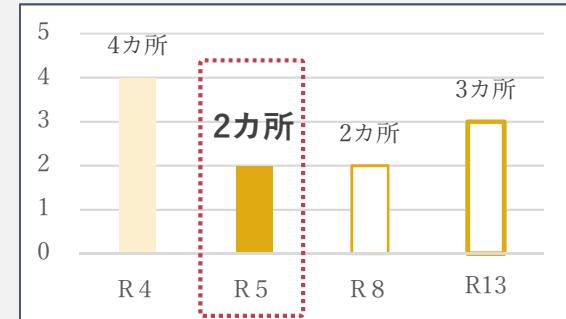
<令和5年度>  
2カ所



<令和8年度>  
2カ所



<令和13年度>  
3カ所



#### 主な指標の増減した要因や取組内容

公共施設の改修・新設に合わせて雨水流出抑制施設の整備を行った。

#### 取組に対する課題や今後の方針

- ・公共施設の改修・新設の事業に対して、施設規模が大きく事業費増加が負担となっている。
- ・引き続き公共施設の改修・新設に合わせて、雨水流出抑制施設の整備を行う。
- ・後期（令和9年度以降）に向けて指標の見直しを行う予定。

## 重点施策 10 | 市民参加による生き物調査の実施

### ■内容

市民が興味・関心を持ちながら参加できる身近な生き物調査を実施します。

### 令和5年度実績

#### ■目標（前期）

##### 市民が参加できる生き物調査を増やす

取組実績	担当課
<p>市民団体と連携し、津之江公園で自然観察会を実施した。</p> <p>また、参加者がどのような生き物に興味を持っているか知るため、アンケート調査を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 「植物観察会」参加者 15 人</li><li>● 「昆虫観察会」参加者 18 人</li><li>● 「野鳥観察会」参加者 19 人</li></ul>	農林緑政課
<p>芥川緑地や萩谷総合公園等で自然観察会を開催し、多くの市民が身近な生物であるカエルやセミ、昆虫類を探査し、生活環境や生態について学習する機会を創出。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 自然観察会 11 回開催（参加者数 254 人）</li></ul>	公園課

## ■市民団体が実施する生き物調査数

単年実績

市民による生き物調査が実施されることで、貴重な生き物に対する市民の理解が深まるなど、生物多様性保全への意識の啓発を図ります。

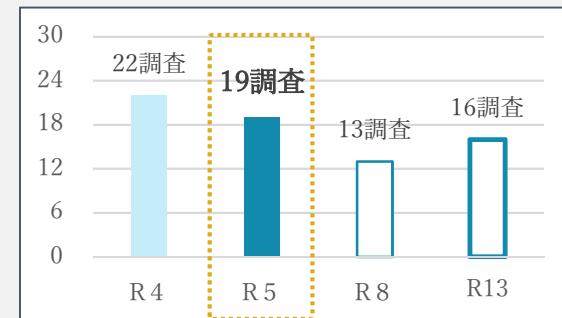
<令和5年度>  
19調査



<令和8年度>  
13調査



<令和13年度>  
16調査



※調査基準を新たに定め、令和4年～5年を再調査

## ■ 主な指標の増減した要因や取組内容

- ・団体の高齢化などの要因により、調査における規模の縮小傾向が見られる。
- ・市民団体と連携し、津之江公園で年3回の自然観察会を実施し、参加者に対して生き物調査を体験する機会の創出や市民団体の活動紹介を行うことで、市民による活動や調査についての周知啓発に取り組んだ。

## ■ 取組に対する課題や今後の方針

- ・自然観察会の参加を通して他の生き物調査へ紹介はするものの、調査を目的に観察会に参加しているわけではない方が大半であるため、団体が実施する調査活動に興味をもって参加へつなげることが容易ではない。
- ・今後、観察会以外の機会でも関心のある市民が団体の調査の取組に触れられる機会を模索していく。
- ・後期（令和9年度以降）に向けて指標の見直しを行う予定

## 重点施策 1.1 | 生物多様性保全の市民への啓発

### ■ 内容

自然博物館と連携し、生物多様性を保全する活動につながるよう、市民への啓発を図ります。

### 令和5年度実績

#### ■ 目標（前期）

##### 生物多様性の保全について理解する市民を増やす

取組実績	担当課
生物多様性啓発パンフレットを作成し、講座やイベント等で配布した。 ●パンフレット配架数 500 部／配架先 「自然観察会」「小学生向けの環境学習」「出前講座」等。	
市民団体と連携し、津之江公園において各種講座を実施した。また、参加者に対して保全活動への理解促進を図るため、津之江公園での整備活動について紹介する時間を設けた。 ●「植物観察会」 15 人／「昆虫観察会」 18 人／「野鳥観察会」 19 人／「小学生向け環境学習」 123 人（計 3 回）	農林緑政課
公民館で生物多様性をテーマにした出前講座を実施し、市民に向けて生物多様性の理解促進に努めた。 ●出前講座参加者 24 名	
高槻市立自然博物館において、生物多様性講座「生態系ってなに？」をテーマにした講座を開催し、生態系という言葉は知っていても、正確には内容を把握していない人が多いことから、森林生態系を専門とする三重大学教授を招き、学習できる場を提供した。 ●参加者数 22 名	公園課

## ■生物多様性という言葉と意味を知っている市民の割合 単年実績

生物多様性の保全を推進するため、イベントや情報発信などを通じて市民へ周知・啓発を図ることで、市民一人一人の生物多様性への意識の向上を図り、環境に配慮した市民の行動につなげます。

市民意識調査により、指標項目を調査し、その割合を算出します。

<令和5年度>  
調査なし

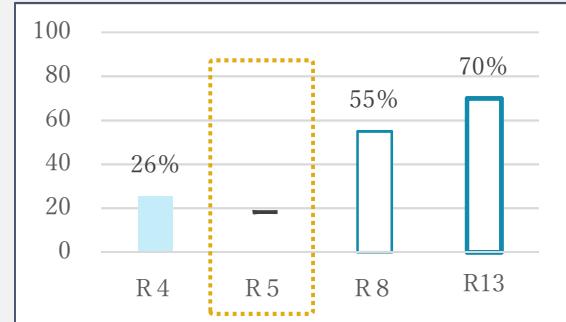


<令和8年度>  
55%



<令和13年度>  
70%

※次回調査令和6年度



### 主な指標の増減した要因や取組内容

幅広い世代に生物多様性の理解促進を図るために、環境学習や自然観察会など各種講座の開催や啓発パンフレットを作成し配布した。また、公民館へ出向き、生物多様性をテーマにした出前講座を開催。

### 取組に対する課題や今後の方針

生物多様性の周知について、低年齢や高齢者層には現状の事業展開で周知する機会を創出できているが、中間層の世代に対する啓発が今後の課題であり、周知・啓発における年代の偏りが見受けられるため、ターゲットとする年代を意識した取組を今後検討していく必要がある。

## 重点施策1 2 | 市民共創によるみどりの人材育成の促進

### ■内容

市民団体との共創によるみどりに関する人材育成のための講座を実施します。

### 令和5年度実績

### ■目標（前期）

#### 講座受講者の地域での緑化活動への参加者数を増やす

取組実績	担当課
<p>「たかつき市民環境大学を開講」。環境保全活動団体が行っている活動を体験する講座を追加し、卒業後の団体活動へ関心を持ってもらうように実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●たかつき市民環境大学卒業生 19人／卒業後の市民団体加入者 19人</li></ul>	環境政策課
<p>園芸講座の一環として、市役所前のコンテナ花壇を利用して植栽の実習を行った。また、実習後は週1回のボランティアによる花壇手入れを実施し、講座受講生に対して手入れへの参加を呼びかけた。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●園芸講座参加者 20人／手入れボランティア 6人</li></ul>	
<p>「市民林業士養成講座」を開講。座学において「林業の現状と課題」や「森林資源の活用」「高槻の森林の現状」等を学び、森林組合指導による間伐などの現場実習を行った。講座を通して、現在の森林の現状を肌で感じてもらい、作業をすることにより森林の環境改善ができるることを実感してもらうよう促した。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●市民林業士養成講座 受講生 19人／修了後のボランティア団体加入者 17人</li></ul>	農林緑政課

## ■講座受講者のうち、地域などの緑化活動や環境保全活動に結び付いた人数（令和4年度からの累計人数）積み上げ実績

市民団体と連携するなどして、みどりの人材育成に関する講座を開催し、講座受講生が積極的に地域などの活動に取り組むことで、みどりの活動の活発化を図ります。

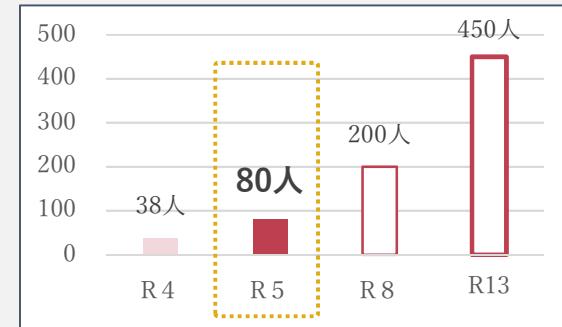
<令和5年度>  
80人



<令和8年度>  
200人



<令和13年度>  
450人



### 主な指標の増減した要因や取組内容

- 対象の3講座の合計参加人数が前年比4人増加。(R4:38人→R5:42人)
- 各講座の受講者数が増加した。「たかつき市民環境大学」については講座のカリキュラムの中に地域での活動体験の場を設けることで、活動の具体的なイメージが掴めたことで、受講後に加入希望者の増加に繋がった。

### 取組に対する課題や今後の方向性

- 「たかつき市民環境大学」については受け入れ先である市民活動団体の数が少ないため、受講者の選択肢が限られている。
- 「市民林業士養成講座」については、全11回のうち8回の受講で「市民林業士」の認定及び市民団体への加入となるので、受講決定後に日程が合わず諦めてしまう方が散見されるため、参加しやすい環境を検討する。

## 重点施策 1 3 | イベント・活動などを通じたみどりの体感による楽しさの創出

### ■内容

森林・農地・河川などの恵まれた自然環境の中でさまざまなイベントを開催するとともに、みどりあふれる公園や森林などが市民や事業者などの催しや共創の場として活用されることで、市民が直接みどりとふれあう楽しさを創出します。

### 令和 5 年度実績

#### ■目標（前期）

##### イベントの参加人数を増やす

取組実績	担当課
<p>安満遺跡公園で第 39 回高槻市都市緑化フェアを開催し、来場者を増やすためにチラシ及びポスターを作成し、小中学校や公民館などへ掲示を依頼した。新型コロナウイルス感染症対策緩和に伴い、飲食物の出店や集客が見込まれる企画を復活させるとともに、普段の公園来園者に多い若年層をターゲットとした企画を実施した。</p> <p>●来場者数 3,490 人</p>	農林緑政課

## ■ イベント参加者で保全活動に興味を持った市民の割合 単年実績

さまざまなイベントを通じて、森林・農地・河川・公園などの自然とふれあうことで、市民のみどりへの興味・関心を醸成し、市民による主体的な保全活動への取組につなげます。

イベント参加者へのアンケートにより、指標項目を調査し、その割合を算出します。

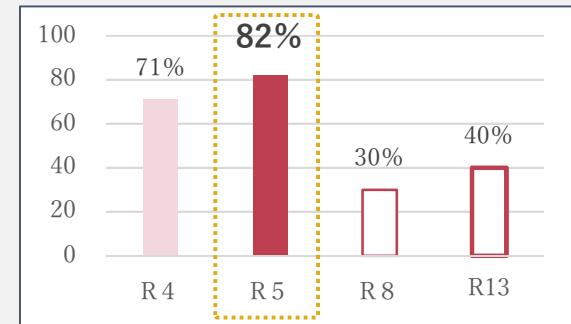
<令和5年度>  
82%



<令和8年度>  
30%



<令和13年度>  
40%



### 主な指標の増減した要因や取組内容

- これまでの 60~70 歳代の参加者層に加えて、会場となる公園の来園者層（若年層）に合わせた企画を新たに実施したため、幅広い年代の方に対して身近なみどりに興味・関心を持ってもらうことができた。
- 広報活動として、HP や広報誌などに写真を多く掲載し、イベントの内容の PR に努めた。

### 取組に対する課題や今後の方向性

- 公園利用者層の中で家族連れの層がイベントの参加率が低いことから、家族連れをターゲットにした企画内容を検討していく。イベント内の講座等の定員を増やすことで、より多くの人が緑に触れる機会を創出する。
- 後期（令和 9 年度以降）に向けて指標の見直しを行う予定。

## 重点施策 1 4 | みどりの交流の場の創出

### ■内容

市民団体と連携し、緑化活動を行う市民が交流できる場をつくります。

### 令和 5 年度実績

#### ■目標（前期）

自治会や市民団体などが参加できる交流会の開催

取組実績	担当課
<p>市民団体と連携して、公園や学校など街中の花壇手入れを行っている方を対象に、植栽方法や土づくりなどの園芸の基礎を学べるワークショップ形式の講座を新規事業として実施した。</p> <p>また、参加者が普段の活動や手入れの方法などを共有し、交流を図ることで知識習得に加え、市民同士のネットワークを形成する機会を提供した。</p> <p>●講座受講者：19 人</p>	農林緑政課

## 施策指標

### ■活動団体交流会の年間開催回数 単年実績

市民団体同士が積極的に交流を図ることで、緑化活動の継続性につなげるとともに、活動の活発化を図ります。

<令和5年度>  
1回



<令和8年度>  
1回



<令和13年度>  
2回



#### 主な指標の増減した要因や取組内容

- ・実施にむけて、令和4年度を「企画・立案」、5年度を「実施」というスケジュールを立て、予定通り実施することができたため。
- ・講座の開催に向けて、「企画」及び「講師探し」、「募集にかかる広報活動」まで市民団体と連携・調整を行うことで開催に至った。

#### 取組に対する課題や今後の方向性

- ・公共スペースで緑化活動を行っている方々は、独学で限られたコミュニティで長い間活動されている方が多い傾向があり、講座に参加すること自体に一定のハードルが存在すると考えられるため、今後は講座に参加したくなるメリットを提示できるように内容を練り上げていく。